

令和3年度

事業報告書

学校法人富山国際学園

目 次

1 法人の概要	
(1) 基本情報	1
(2) 建学の精神	1
(3) 学校法人の沿革	1
(4) 設置する学校・学部・学科等	1
(5) 学校・学部・学科等の学生数の状況	1
(6) 収容定員充足率	2
(7) 役員の概要	2
(8) 評議員の概要	2
(9) 教職員の概要	2
2 事業の概要	
(1) 主な教育・研究の概要	3
(2) 中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況	7
3 財務の概要	
(1) 決算の概要	8
(2) その他（有価証券の状況等）	12
(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策	13
別紙	
(1) 役員等一覧	14
(2) 卒業の認定に関する方針等	15

1 法人の概要

(1) 基本情報

- ① 法人の名称 学校法人富山国際学園
- ② 主たる事務所の住所、電話番号、FAX 番号、ホームページアドレス等
富山県富山市願海寺水口 444 番地
電話 076 (436) 5139、FAX 076 (436) 5444、HP アドレス www.tii.ac.jp

(2) 建学の精神 「高い知性と広い教養、健全にして豊かな個性を備えた人材の育成」

(3) 学校法人の沿革

昭和 38 年 1 月	学校法人富山女子短期大学設立認可
昭和 38 年 4 月	富山女子短期大学開学
昭和 39 年 4 月	富山女子短期大学附属高等学校開校
昭和 52 年 4 月	富山女子短期大学附属みどり野幼稚園開園
平成元年 12 月	学校法人富山国際学園寄附行為変更認可
平成 2 年 4 月	富山国際大学開学
平成 4 年 4 月	富山国際大学附属高等学校に校名変更
平成 12 年 4 月	富山短期大学及び富山短期大学附属みどり野幼稚園に校名変更

(4) 設置する学校・学部・学科等

- ① 富山国際大学
 - 現代社会学部 現代社会学科
 - 子ども育成学部 子ども育成学科
- ② 富山短期大学
 - 食物栄養学科
 - 幼児教育学科
 - 経営情報学科
 - 健康福祉学科
 - 専攻科食物栄養専攻
- ③ 富山国際大学附属高等学校 全日制課程普通科
- ④ 富山短期大学附属みどり野幼稚園

(5) 学校・学部・学科等の学生数の状況

(令和 3 年 5 月 1 日現在)

学 校 名		入学定員	入学者数	収容定員	現員数
富山国際大学	現代社会学部	120	113	490	493
	子ども育成学部	90	104	370	394
富山短期大学	食物栄養学科	80	89	160	169
	幼児教育学科	80	84	160	178
	経営情報学科	110	108	220	232
	健康福祉学科	40	26	80	63
	専攻科・食物栄養	15	16	30	23
附属高等学校	全日制課程普通科	250	284	760	757
みどり野幼稚園			23	110	82

(6) 収容定員充足率

(毎年度5月1日現在)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
富山国際大学	101.7	102.9	105.0	104.1	103.1
富山短期大学	98.1	97.0	104.0	108.8	102.3
付属高等学校	111.9	117.5	108.9	104.3	99.6
みどり野幼稚園	89.0	76.0	75.5	72.7	74.5

(7) 役員の概要 (令和4年3月31日現在・別紙「役員等一覧」参照)

- ① 定数 理事 5人以上12人以内
監事 2人
- ② 現員 理事 9人
監事 2人

(8) 評議員の概要 (令和4年3月31日現在・別紙「役員等一覧」参照)

- 定数 11人以上30人以内
現員 21人

(9) 教職員の概要

(令和3年5月1日現在)

		教 員 数				事 務 職 員	平均年齢	
		学長等	本 務	兼 務	計		教 員	事 務
学園本部						3		49.8
国際大学	現代社会学部		21	16	37	22	54.9	45.4
	子ども育成学部		18	25	43		54.6	
	小 計	1	39	41	81		55.1	
富山短大	食物栄養学科		11	10	21	23	47.3	41.3
	幼児教育学科		10	8	18		54.0	
	経営情報学科		9	6	15		49.0	
	健康福祉学科		7	8	15		58.8	
	小 計	1	37	32	70		52.1	
付属高校		1	48	19	68	4	47.5	54.3
幼稚園		(1)	7	7	14		44.4	-
合 計		3	131	99	233	52	51.1	44.8

※ 兼務教員 学内の兼務者を除く数で示す。

2 事業の概要

(1) 主な教育・研究の概要

- ① 「卒業の認定に関する方針」、「教育課程の編成及び実施に関する方針」及び「入学者の受け入れに関する方針」

別紙「卒業の認定に関する方針等」参照)

② 主な事業の概要

i 学園本部

a 働き方改革への対応

少子高齢化や働き方改革などの社会情勢の変化を踏まえ、教職員が仕事と子育て・介護を両立させることができ、働きやすい環境をつくるため、育児・介護休業等に関する規程を一部改正し、育児・介護休業等を取得できる教職員の範囲を拡充しました。

b 学園情報教育研究センターの取り組み

前年度に引き続き、常駐SEを配備して学園内情報システムの運用管理の改善を進めるとともに、令和3年度は学園が設置する各学校のネットワーク環境を段階的に充実させるため、東黒牧キャンパス、呉羽キャンパス内の外部接続光回線の増強(10Gbps化)並びにネットワーク機器の更新を行いました。併せて、昨今巧妙化かつ激化しているサイバー攻撃への対策として、ファイヤウォール更新により性能を強化し、情報セキュリティの強化を行いました。学内事務効率化としては、ワークフローシステム開発に着手し、一部の事務作業のオンライン化を開始、さらに学園教職員全員のメールアドレス統一化によって情報共有改善と人事管理機能強化などを行いました。

c 新駅(願海寺)設置に向けた取り組み

前年度に引き続き、呉羽キャンパスの交通アクセスを改善するため、期成同盟会と協力し、新駅設置に向けた取組を進めました。

ii 富山国際大学

a 教育・研究活動

(a) 授業改革等の推進

学生の成長を保証するための教育の質向上、国際化・情報化に対応できる人材の育成、個性を伸ばせる学生生活やキャリア支援などを基本目標とした新たなアクションプラン(2018~2022)に基づき、授業アンケート等やFD研修などの充実により、継続的な授業改善を進めました。また、ICTを活用したスマートキャンパス化も進めています。

(b) 教育研究活動

国の科学研究費助成事業をはじめとして、32件、約30百万円の外部資金を獲得するなど、研究の推進に努めました。

b 地域貢献・国際交流活動

(a) 公開講座

新型コロナウイルス感染症の影響から、受講者の感染リスクを回避するため、市民聴講生、リカレント教育は実施を中止しました。

エクステンション・カレッジは、英語講座をオンラインで開催し、前期4名、後期5名の計9名(延数)が受講しました。

(b) ボランティア活動

東黒牧キャンパスでは、ボランティア部が毎年行っている学生防犯ボランティア活動に加え、学生献血推進ボランティアへ積極的に参加したほか、新しい試みとして

富山マラソン 2021 へ参加しました。また、呉羽キャンパスでは一昨年から取り組んできた「子ども食堂」は、with コロナ社会でできる支援を重視し、規模や実施形態を変更して開催しました。食事提供の代わりに食品を配布し、参加する子どもたちへの学習サポートや運動遊びなどの活動の充実を図りました。さらに、これまでの成果を発表する機会を得て、第6回学生団体総選挙 食・農業部門においてグランプリを受賞しました。

(c) 国際交流活動

新型コロナウイルス感染症は依然収束せず、インターナショナルプログラムズ(留学)による派遣をはじめとするほとんどの海外派遣プログラムは中止を余儀なくされたが、3月に入り、ようやく現代社会学部から6名を米国の協定校ミズーリ州立大学に派遣することができた。このうち5名は英語国際キャリア専攻2年生で留学期間は5か月(グローバルスタディーズ)。残る1人は環境デザイン専攻3年生で、期間は10か月(インターナショナルプログラムズ)。また、大学コンソーシアム富山事業として、映像翻訳者の富山市内で英語教室を運営している藤田彩乃氏を講師に招き、グローバルチャレンジ入門講座「映像翻訳の現場から コロナ時代の多様性・共生を考える」をテーマとしたオンラインセミナーを開催しました。

c 課外活動

ボート部が全日本大学選手権大会の男子ダブルスカルが2年連続で優勝しました。また、男子ペアでも優勝となり、総合では準優勝の好成績を上げました。陸上競技部は、男子ハンマー投において、日本学生個人選手権、日本学生対校選手権大会に出場しました。北信越学生陸上競技対校選手権大会の男子ハンマー投で、また、北信越学生陸上競技選手権の女子走高跳でそれぞれ優勝するなどの成績を上げました。

d 各学部の状況

(a) 現代社会学部

新型コロナウイルス感染症の影響から海外渡航が制限される中、地域のグローバル化に対応する人材育成に寄与するため、英語国際キャリア専攻の学生5名を含む計6名の学生が、年度末から米国ミズーリ州立大学へ留学しました。

また、地域活動では、南砺市と連携した取組みを行ったほか、各専攻の実習、研究室での活動、「夢への懸け橋事業」で、地域の人々の協力も仰ぎながら、教員と学生が一丸となって地域の課題解決に取り組みました。

(b) 子ども育成学部

子どもの育ちとその環境を一体的に捉えた「教育と福祉のハイブリッド」を教育理念に掲げ、地域に貢献できる人材育成に引き続き取り組み、小学校教諭一種免許状をはじめとする資格取得につなげました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により活動が制約される中、小学校や保育所・幼稚園・認定こども園、福祉施設でのインターンシップのほか、小学校支援活動として理科実験アシスタントや英語学習パートナーにも多くの学生が参加しました。

iii 富山短期大学

a 教育・研究活動

(a) 授業改革等の推進

平成26年度文部科学省事業「学修成果の可視化」の6年間の実績を踏まえ、引き続き授業改善・教育改革による「教育の質保証」に取り組みました。令和3年10月には、7年に一度の(一社)大学・短期大学基準協会による認証評価を受審し、「適格である」との判定をいただきました。

(b) 教育研究活動

国の科学研究費助成事業、富山第一銀行奨学財団研究助成など、5件4百万円余の外部資金獲得、研究紀要第58巻発行、学長裁量経費助成研究など研究活動推進に努めました。

b 地域貢献・国際交流活動

(a) 公開講座

呉羽キャンパスをはじめ7会場（うち1会場はオンライン）で9講座28テーマを開講し、受講者は延べ963人（前年438人）に上りました。

(b) ボランティア活動

学生の人間力向上を目的として、本学独自のWebボランティアシステムを活用して、活動への参加を推奨する取組みを実施し、令和3年度は、富山マラソンなど依頼件数が184件の依頼に対し69件の活動に学生が参加しました。また学生のサークル・ボランティア活動の立上げ支援事業「+oneともに」を実施し、新たに6団体が結成されました。

c 各学科の状況

(a) 食物栄養学科

卒業生78名に対して76名が栄養士の資格を取得したほか、4名が栄養教諭第二種免許を取得しました。今年度から新しく日商PC検定3級（文書作成）の資格取得を可能とした結果、6名が受験して4名が合格しました。12月末にて魚津漁業協同組合との連携事業が終了し、その成果として県内の未利用魚を活用した39種の料理を開発し、レシピ集としてまとめました。また、ペニズワイガニの殻について、血中コレステロール濃度改善作用のあることを見出し、富山短期大学紀要に掲載しました。栄養士養成課程施設として東海北陸厚生局の指導調査を受けましたが、報告を求められる是正事項はありませんでした。コロナ禍ではありましたが、給食管理校外実習については2週間校外で実習することができました。

(b) 幼児教育学科

就職希望者の内、96%が専門職に就職し、人材不足が叫ばれている保育分野と福祉分野に巣立ち、地域に貢献しました。また、大学コンソーシアム富山の「学生による地域フィールドワーク研究助成」に4年連続で採択され、「富山県内で個別なニーズを有する子どもの支援の実態と課題」に取り組み、「チームワーク賞」を受賞しました。「南砺市子どもの権利条例策定委員会」委員に学科教員が委嘱され、子どもの権利条例づくりワーキンググループメンバーとして学生が参加しました。

(c) 経営情報学科

学生の就職活動モチベーションを計画的に高めるため、1年生の11月から地元有力企業の協力を得て、「学内企業研究会」や「学内企業説明会」を開催するなどの取組みを進めることにより、引き続き、就職率100%を達成しております。また、英語や小論文、面接などの特別指導を実施することで国立大学や富山国際大学への編入学につなげるなど、学生の多様な進路選択への支援に引き続き取り組んでおります。

(d) 健康福祉学科

介護福祉士養成課程の新カリキュラムに取り組むとともに、ワクチンの優先接種や学生と家族、施設の協力のもと全ての介護実習を実施しました。介護ロボットやICTの活用で「進化・深化する介護の仕事」の理解促進を図るための「福祉介護フォーラム」を開催、新たに県の委託（800万円）を受け、呉羽地域を対象に3年計画で、「地

域での介護の仕事魅力アップ推進研究モデル事業」に取組み、地元の関係団体との連携を強化しました。

(e) 専攻科食物栄養専攻

専攻科2年生7名のうち6名が、学位試験に合格し(独)大学評価・学位授与機構より学位(四年制)を授与されました。昨年度の修了生9名全員が管理栄養士の国家試験に合格しました(合格率100%)。また、栄養士の学位(四年制)も、2名が再受験した結果、修了生全員が学位(四年制)を取得することができました。専攻科2年生の2チームが、JA全国女性組織協議会主催の料理コンテストにおいて「JA全国女性協創立70周年記念賞」を受賞いたしました。

iv 付属高等学校

a 教育研究活動

(a) ICT (Information Communication Technology) 教育の推進

平成23年度より11年間にわたって、県内でも最先端のICT教育を展開しています。生徒全員がiPadを所有するほか、高速無線LANや各教室へのプロジェクター2台設置などの教育環境やデータサイエンス教育、プログラミング教育、オンライン授業など、GIGAスクール時代においても県内高校をリードする存在となっております。

(b) 国際交流活動の推進と学校のグローバル化

全国高校生英語ディベート大会において第3位入賞を果たしたほか、各種大会において優秀な成績を収め、全国トップクラスの伝統を築いています。また、コロナ禍においても国際交流を継続させ、32名がアメリカ・カナダ及びヨーロッパへ長期海外留学をしました。さらに、ICTを活用して韓国ソルブリッジ大学や米国ポートランド州立大学のオンライン英語講座を受講しました。そして、アメリカ・中国・香港・韓国などの姉妹校やロシアの高校とのビデオ交流など、積極的に海外の生徒との交流を行いました。これからも姉妹校や提携校とのネットワークとICTを十分に活用しながら交流活動を継続し、グローバル社会で活躍できる生徒を育成するための取り組みを進めてまいります。

b 課外活動

新型コロナウイルス感染症の影響により、運動部では県外遠征と練習試合が、文化部でも他校との交流が厳しく制限されましたが、多くの部が優れた成績を収めました。中でも、英語部は第16回全国高校生英語ディベート大会において第3位となったほか、メディア・テクノロジー部は、カーネギーメロン大学国際ハッキング大会 picoCTF 2021 日本部門女性部門賞受賞と世界的舞台でも健闘しています。今年度も各部のさらなる活躍が期待されます。

v みどり野幼稚園

a 教育研究活動

(a) 幼稚園型認定こども園としての取り組み

保育の低年齢化・長時間化といったニーズに合わせて、令和2年度から始めた満3歳児クラスは、9月に定員(6名)を満たしました。2号認定・新2号認定の子どもが増加し、長時間保育の質の向上に努めましたが、感染対策への配慮もあり、1号認定の預かり保育サービスを十分に保障することができませんでした。次年度には、保育空間や人員配置等を考慮しながら、サービス充実に努めてまいります。

(b) 子育て支援・保護者との連携

日頃の保育の様子や子どもの表情を、園関係者限定のブログで発信する回数を増

やし、保護者との情報共有に努めました。また、コロナ禍で低年齢児の子育て家庭における閉塞感・孤立感が高まっていることに対応し、在園児の保護者のボランティア参加を得るなどして、地域子育て家庭への支援に取り組みました（19回開催、延べ710人参加・保護者344人、児童366人）。

(c) 研究・研修、学園内連携

令和4、5年度の東海北陸地区私立幼稚園教育研究会における発表にむけて、カリキュラム作成や記録の検討、園庭環境の充実等をテーマとした園内研修を重ねました。また関係機関のリモート研修に積極的に参加し、保育の質向上に努めました。

本園の使命である実習指導については、新型コロナウイルスの影響で一部内容変更を行ったものの、富山短期大学幼児教育学科の学生83名、富山国際大学子ども育成学部の学生5名の実習を受け入れ、指導に努めました。

(2) 中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況

学園将来構想を踏まえた学園中期事業計画（令和元年度～5年度）の3年目を迎えたところですが、年初来の新型コロナウイルス感染症により遠隔授業の実施を余儀なくされるなど、教育研究活動などの面で大きな影響を受けましたが、一方、学園情報教育研究センターにおける情報化に向けた取り組みなど、着実な前進も見られました。

3 財務の概要

(1) 決算の概要

① 貸借対照表関係

i 貸借対照表の状況と経年比較

総資産額は、13,821百万円と前年度に比べ158百万円の増加、負債総額は1,205百万円で前年度に比べ9百万円の増加となりました。

総資産額の増加は、学園施設等充実引当特定資産などの増加によるもので、また、負債総額の増加は、退職給与引当金、前受金及び修学旅行費預り金の増加などによるものです。

(単位：千円)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
固定資産	12,073,556	12,185,464	12,500,691	12,594,092	12,636,119
流動資産	1,082,519	1,127,485	954,899	1,068,999	1,185,794
資産の部合計	13,156,075	13,312,949	13,455,590	13,663,091	13,821,913
固定負債	584,834	584,812	571,855	568,099	569,943
流動負債	695,782	706,457	639,239	628,283	635,512
負債の部合計	1,280,616	1,291,269	1,211,094	1,196,382	1,205,455
基金	14,515,941	14,690,557	14,736,774	14,850,525	14,900,418
繰越収支差額	△ 2,640,482	△ 2,668,877	△ 2,492,278	△ 2,383,816	△ 2,283,960
純資産の部合計	11,875,459	12,021,680	12,244,496	12,466,709	12,616,458
負債の部及び純資産の部合計	13,156,075	13,312,949	13,455,590	13,663,091	13,821,913

ii 財務比率の経年変化

流動費比率は、約170%から約186%程度で推移しており、短期的な返済力には支障がない水準にあります。

積立率は、令和3年度末で78.7%と徐々に改善してきていますが、さらに運用資産の充実に努めていく必要があります。

(単位：年・%)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
運用資産余裕比率(年)	1.7	1.7	2.0	2.2	2.3
流動比率	155.6	159.6	149.4	170.1	186.6
総負債比率	9.7	9.7	9.9	8.8	8.7
前受金保有率	186.1	177.0	184.2	204.5	230.4
基金比率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
積立率	69.8	69.5	74.3	76.4	78.7

② 資金収支計算書書類関係

i 資金収支計算書の状況と経年比較

当年度の資金収入総額及び支出総額は、3,712百万円と前年度に比べ43百万円の増加となりました。

(単位：千円)

収入の部	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
学生生徒等納付金収入	1,938,399	1,982,473	2,049,244	2,043,820	1,995,554
手数料収入	37,131	39,461	40,050	38,873	37,721
寄付金収入	2,900	2,230	46,769	4,627	3,885
補助金収入	708,011	693,373	624,831	629,567	607,395
資産売却収入	0	200	0	0	0
付随事業・収益事業収入	30,837	30,809	27,800	18,822	23,658
受取利息・配当金収入	5,360	3,713	2,412	1,754	1,758
雑収入	131,731	114,693	89,989	82,433	57,229
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	460,767	494,167	458,420	459,755	460,960
その他の収入	381,735	3,457,222	272,667	110,055	117,081
資金収入調整勘定	△ 663,728	△ 687,756	△ 579,709	△ 564,954	△ 533,384
前年度繰越支払資金	815,118	857,355	874,683	844,356	940,047
収入の部合計	3,848,261	6,987,940	3,907,156	3,669,108	3,711,904

支出の部	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人件費支出	1,704,267	1,682,054	1,703,869	1,645,743	1,598,660
教育研究費支出	523,593	571,046	507,728	509,839	534,433
管理経費支出	122,351	118,024	127,869	126,773	125,345
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	235,718	343,659	20,808	51,306	25,376
設備関係支出	35,271	37,299	35,421	65,147	32,226
資産運用支出	406,117	3,334,978	629,232	317,800	339,770
その他の支出	139,678	179,485	154,375	119,310	79,645
資金支出調整勘定	△ 176,089	△ 153,288	△ 116,501	△ 106,857	△ 85,669
翌年度繰越支払資金	857,355	874,683	844,355	940,047	1,062,118
支出の部合計	3,848,261	6,987,940	3,907,156	3,669,108	3,711,904

ii 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

教育活動資金収支差額は、478百万円と前年度と比べ黒字幅が19百万円の減少となりましたが、これは、補助金が減少したことなどによるものです。
 施設整備等活動資金収支差額は、△56百万円と赤字幅が前年度に比べ51百万円の減少となりました。
 その他の活動資金収支差額は、△300百万円と前年度に比べ赤字幅が6百万円増加しましたが、これは特定資産への取崩額の減少などによるものです。
 支払資金は、年度当初の940百万円から年度末には1,062百万円と122百万円の増加しております。

(単位：千円)

科 目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	2,770,753	2,749,393	2,874,453	2,830,483	2,723,534
教育活動資金支出計	2,350,211	2,371,124	2,339,466	2,282,369	2,258,388
差 引	420,542	378,269	534,987	548,114	465,146
調 整 勘 定 等	37,625	98,102	68,914	△ 51,501	12,922
教育活動資金収支差額	458,167	476,371	603,901	496,613	478,068
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	78,180	113,847	4,000	9,874	1,687
施設整備等活動資金支出計	270,990	380,958	56,229	116,453	57,602
差 引	△ 192,810	△ 267,111	△ 52,229	△ 106,579	△ 55,915
調 整 勘 定 等	△ 73,000	△ 111,355	0	0	0
施設整備等活動資金収支差額	△ 265,810	△ 378,466	△ 52,229	△ 106,579	△ 55,915
小 計 (※1)	192,357	97,905	551,672	390,034	422,153
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	255,997	3,257,797	48,319	24,286	12,525
その他の活動資金支出計	406,117	3,338,374	630,319	318,628	312,608
差 引	△ 150,120	△ 80,577	△ 582,000	△ 294,342	△ 300,083
調 整 勘 定 等	0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	△ 150,120	△ 80,577	△ 582,000	△ 294,342	△ 300,083
支払資金の増減額 (※2)	42,237	17,328	△ 30,328	95,692	122,070
前年度繰越支払資金	815,118	857,355	874,683	844,355	940,047
翌年度繰越支払資金	857,355	874,683	844,355	940,047	1,062,117

※1 教育活動資金収支差額及び施設整備等活動収支差額の合計額を示す。

※2 小計 (※1) 及びその他の活動資金収支差額の合計額を示す。

iii 財務比率の経年比較

(単位：%)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
教育活動資金収支差額比率	16.5	17.3	21.0	17.7	17.6

③ 事業活動収支計算書関係

i 事業活動収支計算書の状況と経年比較

当年度収支は、学納金、補助金の減少などにより、前年度の108百万円の黒字から97百万円の黒字と黒字幅が縮小しました。

(単位：千円)

科 目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
教育活動					
事業活動収入の部					
学生生徒等納付金	1,938,399	1,982,473	2,049,244	2,043,820	1,995,554
手 数 料	37,131	39,461	40,050	38,873	37,721
寄 付 金	3,514	2,444	47,042	5,209	4,279
経常費等補助金	629,831	579,727	620,831	619,693	605,708
付随事業収入	30,837	30,809	27,800	18,822	23,658
雑 収 入	132,544	116,619	114,979	94,727	63,489
教育活動収入計	2,772,256	2,751,533	2,899,946	2,821,144	2,730,409
事業活動支出の部					
人 件 費	1,691,581	1,683,943	1,716,076	1,654,196	1,606,915
教育研究経費	843,652	892,675	836,508	831,405	854,541
管 理 経 費	124,647	120,655	130,559	129,570	129,917
徴収不能額等	355	0	0	0	0
教育活動支出計	2,660,235	2,697,273	2,683,143	2,615,171	2,591,373
教育活動収支差額	112,021	54,260	216,803	205,973	139,036
教育活動外収支					
事業活動収入の部					
受取利息・配当金	5,360	3,713	2,412	1,754	1,758
その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
教育活動外収入計	5,360	3,713	2,412	1,754	1,758
事業活動支出の部					
借入金等利息	0	0	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
教育活動外支出計	0	0	0	0	0
教育活動外収支差額	5,360	3,713	2,412	1,754	1,758
経 常 収 支 差 額	117,381	57,973	219,215	207,727	140,794
特別収支					
事業活動収入の部					
資産売却差額	0	199	0	0	0
その他の特別収入	80,511	116,105	9,737	17,184	11,363
特 別 収 入 計	80,511	116,304	9,737	17,184	11,363
事業活動支出の部					
資産処分差額	25,968	28,057	6,136	2,699	2,358
その他の特別支出	0	0	0	0	50
特 別 支 出 計	25,968	28,057	6,136	2,699	2,408
特 別 収 支 差 額	54,543	88,247	3,601	14,485	8,955
基本金組入前当年度収支差額	171,924	146,220	222,816	222,212	149,749
基本金組入額合計	△ 215,685	△ 174,615	△ 46,217	△ 113,750	△ 52,894
当年度収支差額	△ 43,761	△ 28,395	176,599	108,462	96,855
前年度繰越収支差額	△ 2,596,721	△ 2,640,482	△ 2,668,877	△ 2,492,278	△ 2,383,816
基本金取崩額	0	0	0	0	3,000
翌年度繰越収支差額	△ 2,640,482	△ 2,668,877	△ 2,492,278	△ 2,383,816	△ 2,283,961
(参考)					
事業活動収入計	2,858,127	2,871,550	2,912,095	2,840,082	2,743,530
事業活動支出計	2,686,203	2,725,330	2,689,279	2,617,870	2,593,781

ii 財務比率の経年比較

人件費比率は、約60%前後とやや高い水準で推移しています。
 教育研究経費比率は、約30%前後で推移しており、教育研究活動の維持に必要な水準は確保されています。

事業活動収支差額比率及び経常収支差額比率は、学生生徒納付金、補助金の減少により事業活動収入、経常収入が減少したため、前年度に比べ、それぞれ2%程度減少しています。

(単位：%)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人件費比率	60.9	61.1	59.1	58.6	58.8
教育研究経費比率	30.4	32.4	28.8	29.5	31.3
管理経費比率	4.5	4.4	4.5	4.6	4.8
事業活動収支差額比率	6.0	5.1	7.7	7.8	5.5
学生生徒等納付金比率	69.8	72.0	70.6	72.4	73.0
経常収支差額比率	4.2	2.1	7.6	7.4	5.2

(2) その他

① 有価証券の状況

(単位：千円)

種 類	貸借対照表上計上額	時 価	差 額
出 資 金	5	5	0

② 借入金の状況

借 入 先	期末残高	利率	返 済 期 限
<該当なし>			

③ 学校債の状況

発 行 年 度	期末残高	利率	償 還 期 限
<該当なし>			

④ 寄附金の状況

(単位：千円)

寄附金の種類	寄 付 者	金 額	摘 要
一 般 寄 付 金	個人・企業	0	教育研究等資金として
特 別 寄 付 金	企業等	3,885	寄附講座資金として
現 物 寄 付 金	高校卒業記念等	9,851	美術品等
合 計		13,736	

⑤ 補助金の状況

各設置校の補助金の交付状況は次のとおりです。

(単位：千円)

補助金の種類	国際大学	富山短大	付属高校	幼 稚 園	合 計
国 庫 補 助 金	140,030	108,643	0	0	248,673
地方公共団体等補助金	1,725	1,655	279,980	75,362	358,722
合 計	141,755	110,298	279,980	75,362	607,395

- ⑥ 収益事業の状況
 - <該当なし>
- ⑦ 関連当事者等との取引の状況
 - i 関連当事者 <該当なし>
 - ii 出資会社 <該当なし>
- ⑧ 学校法人間財務取引 <該当なし>

(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

新型コロナウイルス感染症の影響から遠隔授業の実施や学外実習の制約など、教育研究活動が大きな影響を受けた中、学園全体の当年度収支は、前年度に比べ減少したものの、黒字を計上することができました。

財務比率をみると、事業活動収支差額比率及び経常収支差額比率は、学生生徒納付金や補助金の減少により前年度に比べ低下しており、ほぼ全国平均値となっております。また、積立率は、令和3年度末で82.0%と徐々に回復しておりますが、さらに運用資産の充実に努めていく必要があります。なお、流動比率は、約170～180%程度で推移しており、短期的な返済力には支障のない水準にあります。

今後、教育研究活動の維持・向上のためには、人件費比率を低減させるとともに、教育研究経費比率を高めていく必要があります。また、大学及び短大施設の老朽化の進展を踏まえると、今後、改築又は修繕・改修費の増高が見込まれることから、引き続き、学生確保に積極的に取り組むなど、収益性をさらに高めるとともに、運用資産の充実に図り経営の安定性を高めていく必要があります。

役員等一覧

(令和4年3月31日現在)

1 役員

理事 定数 5人以上12人以内・現員 9人

監事 定数 2人・現員 2人

区分	氏名	就任年月日	常勤・非常勤	主な現職等
理事長	金岡克己	理事 平成27年 9月17日 理事長 平成29年 6月 1日	非常勤	(株) スカイインテック特別参与
常務理事	黒崎紫抄代	理事 平成31年 4月 1日 常務理事 令和元年 5月31日	常勤	学園本部事務局長
理事	高木利久	令和元年 7月 1日	常勤	富山国際大学学長
理事	宮田伸朗	平成29年 4月 1日	常勤	富山短期大学学長
理事	倉田延邦	平成26年 4月 1日	常勤	富山国際大学附属高等学校校長
理事	水口昭一郎	平成26年 4月 1日	非常勤	立山科学(株)代表取締役会長
理事	山地清	平成26年 4月 1日	非常勤	富山信用金庫理事長
理事	若林啓介	平成28年 5月31日	非常勤	(株) 若林商店代表取締役社長
理事	藤井久丈	平成29年 4月 1日	非常勤	医療法人社団藤聖会理事長
監事	古越邦男	令和 3年12月21日	非常勤	舟橋村長
監事	新庄幹夫	平成29年 6月27日	非常勤	富山県商工会議所連合会常任理事

2 評議員

定員11人以上30人以内・現員21人

氏名	就任年月日	主な現職等
金岡克己	平成25年 3月28日	(株) スカイインテック特別参与
黒崎紫抄代	平成31年 4月 1日	学園本部事務局長
高木利久	平成31年 4月 1日	富山国際大学学長
宮田伸朗	平成14年 4月 1日	富山短期大学学長
倉田延邦	平成26年 4月 1日	富山国際大学附属高等学校校長
石動瑞代	平成29年 4月 1日	富山短期大学附属みどり野幼稚園長
高野愛	平成28年11月30日	富山国際大学卒業生
安川和子	平成 2年11月 9日	富山短期大学卒業生
梶野三保	令和 3年 3月29日	富山国際大学附属高等学校卒業生
水口昭一郎	平成 8年 4月 1日	立山科学(株)代表取締役会長
金岡純二	平成 5年 9月 8日	(株) 富山第一銀行代表取締役会長
松井竹史	平成13年 5月28日	テイカ製菓(株)取締役会長
岩田繁子	平成18年 5月31日	富山県婦人会長
川腰清志	平成25年 3月28日	前老田地区自治振興会長
梅田ひろ美	平成26年 4月 1日	(株) ユニゾーン代表取締役会長
今本雅祥	平成28年 4月 1日	富山市副市長
蔵堀祐一	令和 3年 5月25日	富山県副知事
佐藤栄治	平成29年11月 2日	富山国際大学後援会長
前田利数	令和元年12月 2日	前富山短期大学後援会長
草野寛明	令和 3年 5月25日	富山国際大学附属高等学校PTA会長
宮田徹	平成21年 4月 1日	(福) 富山国際学園福祉会事務局長

I 富山国際大学

1 卒業認定・学位授与の方針

富山国際大学（以下、「本学」という。）は、「共存・共生の精神と知性を磨く教育を基本に、時代の潮流に対応できる、健全にして個性豊かな人材を育成して、国際社会及び地域社会の発展に寄与する」ことを、基本理念に掲げている。

このような基本理念を踏まえて、所属学部の教育課程所定の単位を修得したうえで、以下のよ
うな資質・能力を身につけることを目標とする。

各学部の卒業認定・学位授与の方針は、この全学の方針を踏まえて定める。

・人間性の向上（DP1）

共存・共生の精神のもと時代の潮流に対応できるよう、人間として必要な知識や教養、思
考力・表現力、倫理観を身につける。

・専門性の向上（DP2）

各学部のそれぞれの教育目標に基づき、講義、演習、実習を通して、専門分野に関わる基
本的知識・技能や知的学識を習得し、専門的素養を身につける。

・社会性の向上（DP3）

大学内外での学修を通じて、人々と協力して課題などを解決できる、社会性を持ち自立し
た人間になったと実感できる力を身につける。

2 教育課程編成・実施の方針

卒業認定・学位授与の方針に基づき、教養科目、専門科目を体系的に編成して、講義、演習、
実習科目等を適切に配置し、効果的な授業の実施を図る。

(1) 教養科目に、「共存・共生へのアプローチ科目群」、「時代の潮流へのアプローチ科目群」、及
び「教養演習科目群」を設ける。

(2) 各学部の専門科目を、学部や専攻の専門分野の修得に適した科目群に分け、体系的に授業
科目を配置する。

(3) 社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を培うために、教養科目の中に「キャリア
科目群」を設ける。また、重点的に育成する全学共通の基礎的・汎用的能力として、コミュ
ニケーション能力、協働力、課題解決力を設定し、これらの能力の向上を図るため、各授業
科目でどの能力を伸ばすかをシラバスで明示する。

各学部の教育課程編成・実施の方針は、この全学の教育課程編成・実施の方針及び各学部の卒
業認定・学位授与の方針に基づき、定めることとし、各授業科目が卒業認定・学位授与の方針に
定められたどの能力・素養の向上に寄与するかをシラバスで明示する。

授業の実施にあたっては、対話型授業、演習・反復型授業、グループ学習、地域フィールドワ
ーク、授業外学習指導や自主学習等、多様な教育方法による効果的学びを採り入れることとし、
各授業科目でどのような教育方法を採用するかをシラバスで明示する。

3 入学者の受け入れ方針

・富山国際大学の教育理念・目標

富山国際大学では、「共存・共生の精神と知性を磨き、健全にして個性豊かな人格を形成す
ることを基本的な教育理念として、国際化、情報化、少子高齢化、環境との共生の時代にお
いて、国際社会及び地域社会の発展に貢献できる人間を育成する」ことを教育目標としてい
ます。

このような人材を育成するために、次のような入学者を求めています。

・求める人物像

- ① 大学教育を受けるにふさわしい基礎学力を有し、学ぶ意欲および目的意識を持つ人
- ② 知性、教養を身に付け、個性豊かな人間をめざし、自己を高める努力をする人
- ③ 国際社会や地域社会の発展に貢献できるよう、専門的・実践的な知識や技術の取得に意欲を持つ人

II 富山短期大学

1 卒業認定・学位授与の方針

富山短期大学は建学の精神・教育の理念に基づいて、「高い知性と広い教養と健全にして豊かな個性をもった地域社会の発展に貢献する人材」の育成、すなわち全人的な人間育成をめざし、次の5つの力を身につけることを全学的な教育目標としています。

- ① 実践の土台となる「専門的知識・技能」
- ② 実践を支える「思考力・判断力・表現力」
- ③ 生涯学び続け成長するための「主体的に学ぶ力」
- ④ 他者を尊重し、多様な人々と共に共通の目標の実現に貢献できる「協働力」
- ⑤ 健全で豊かな「人間性」

これらを踏まえて、各学科がそれぞれの教育目的に応じて定める卒業認定・学位授与の方針に示す学修成果を修得し、本学の卒業要件を満たした人に短期大学士の学位を授与します。専攻科においては、専攻科修了認定方針に示す学修成果を修得し、所定の修了要件を満たした人の修了を認定します。

2 教育課程編成・実施の方針

富山短期大学がめざす人材を育成するために、本学の教育理念に沿って、各学科・専攻科がそれぞれの教育目的・目標に基づく学修成果の達成に必要な教育課程を体系的・系統的に編成し実施します。

教育課程の体系をわかりやすく示すために、科目間の連携や系統性を示すナンバリングを行い、併せて科目系統図を示します。

さらに、各授業科目の学修成果と、学位プログラム全体・各学期の学修成果との関連をわかりやすく示すために、カリキュラムマップを作成し提示します。

教育内容、教育方法・学修方法、評価については以下のように定めます。

(1) 教育内容

2年間を通じて、各学科の教育課程の体系性に基づき、系統立てて必修科目、選択科目を適切に配置し教育を実施します。

(2) 教育方法・学修方法

卒業認定・学位授与の方針に掲げる身につけるべき「5つの力」（「専門的知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体的に学ぶ力」、「協働力」、「人間性」）育成のために、各学年・各学期に講義、演習、実習・実験・実技を適切に配列するとともに、すべての教科目においてアクティブ・ラーニングを取り入れた授業の展開に努めます。

学生の「振り返り（リフレクション）」を促し、「主体的学び」へのモチベーションを高めるために、各種試験や課題・レポート、アンケート結果等を学期中にフィードバックする等の形成的評価に努めます。

(3) 評価

本学では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる学修成果の修得状況を、「学生個人」、「学科」、「大学」の3つのレベルで把握し、多面的・総合的に評価して、授業改善、学生の個別学習指導、ひいては教学の改善に役立てるとともに、対外的に教育の質保証を担保し、説明

責任を果たすための可視化に努めます。

各授業科目の成績評価については、シラバスに示された学修成果別評価基準（ルーブリック）に沿って、学修成果の5つの基準（LO1：知識・理解、LO2：技能、LO3：思考力・表現力、LO4：関心・意欲・態度、LO5：人間性・社会性）別に、多様な手段と方法により、多面的・総合的かつ厳正に行うことを基本とします。

「学生個人」のレベルでは、各授業科目における学修成果基準別成績評価を累計して、学修成果基準別ならびに学修成果全体の実現・達成状況を確認するとともに、学期ごと及び累積のGPAを算出し、総合成績評価を行います。加えて、毎学期末の授業アンケートによる当該授業科目に関する学修成果基準別到達度、1年次前期末・後期末と卒業時に実施する学修行動・生活調査による学修成果基準別資質・能力の成長度を集計し、学生個人の学修成果の修得状況を多面的・総合的に評価します。

「学科」レベルの学修成果は、上記の「学生個人」レベルの学修成果の修得状況を集計して、多面的・総合的に評価します。

「大学」レベルの学修成果は、上記の「学科」レベルの学修成果の修得状況を集計して、多面的・総合的に評価します。

3 入学者受入れの方針

富山短期大学は、昭和38年、富山女子短期大学として創立以来、「高い知性と広い教養、健全にして豊かな個性を備えた人材の育成」を教育理念としてきました。

地域社会への貢献を社会的使命とする本学では、時代の要請に応えるべく、各分野でのスペシャリストの養成をめざしています。

この教育理念・教育目標に基づき、本学では、卒業認定・学位授与の方針に定める人材を、教育課程編成・実施の方針に則って育成するために、次のような人の入学を希望します。

- ・高等学校での教育課程を幅広く修得している人
- ・大学教育を受けるにふさわしい思考力・判断力・表現力を有している人
- ・知性、教養を身につけ、個性豊かな人間をめざし、主体性をもって自己を高める努力をする人
- ・積極的に他者との関わりをもち、地域社会の発展に貢献する意欲を持つ人

本学では、このような入学者を適正に選抜するために、多様な入試方法を実施し、本学が求める資質・能力を多面的・総合的に評価します。